**（参考）【日本万国博覧会記念公園　日本庭園 植栽等景観創出業務】**

**作業標準仕様書**

(※なお、本作業標準仕様書は、令和５年度まで日本万国博覧会記念公園日本庭園で行われていた植栽管理等の作業内容及び注意事項、並びに植栽管理等における今後の留意事項や求める技術について記述したもので、企画提案書及び応募金額提案書の作成時の参考資料として提示するものであることから、提案内容について制限するものではないが、本仕様書で示す作業標準内容を超える品質（管理水準や技術）を提案し実施することを前提とする。また、本作業標準仕様書は年間を通じて行う作業を示している。)

**Ⅰ　本業務の目的と対象**

**１　目　的**

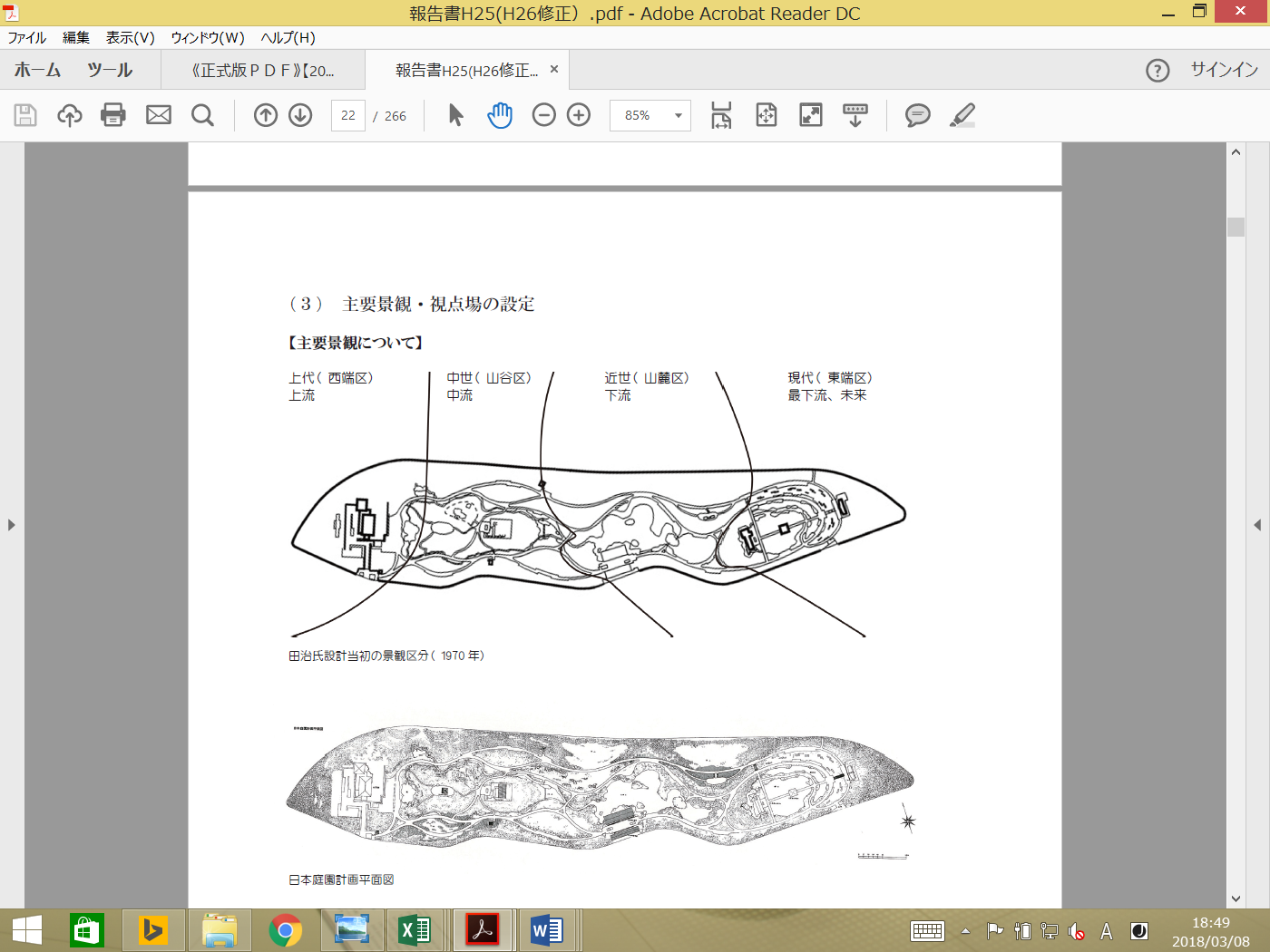
・本業務は、1970年の日本万国博覧会の開催に際し、日本政府の出展物として当時の日本の造園技術の粋を集めて作られた日本万国博覧会記念公園日本庭園の作庭意図や視点場等を熟知し、より一層魅力ある景観を作り上げるように植栽等の管理を行うものである。

**１　対　象**

・対象区域は以下のとおりである。

○万博記念公園日本庭園（面積26.0ha）における植栽および東屋、池、滝や流れ、藤棚、景石、灯篭、四つ目垣、敷き砂（洲浜等の白川砂や苔庭の砂利）、石張り、八つ橋等の造園施設。

但し、迎賓館及び中央休憩所等の大型建築物、ハス庵、茶室建物内、電気等設備、アスファルト舗装（主園路の石材舗装含む）、ベンチは対象外とする。



**Ⅱ　作業方法等**

**１　共通事項**

**(1)共通**

・受注者は、日本万国博覧会記念公園日本庭園植栽等景観創出業務対象の樹木・草花の生育と景観を向上・維持させるため、常に提案し、監督職員と協議を行い、共同して管理進捗を図ること。

・受注者は、本庭園が、芝地、低木、高木とその他構造物（石組や池、流れ等）が一体となって構成される景観を鑑賞してもらう施設であることを踏まえ、剪定や芝刈等の修景作業をバランスよく行い、全体（一つの風景）として視点場からの美観が保たれるように修景管理を行うこと。

・受注者は、提案書及び本仕様書等に基づき、本業務の通年管理計画や細かな作業仕様等を検討し、監督職員と協議した上で取りまとめ、その他必要な資料も含めて、業務計画書として、監督職員に契約時に提出すること。

・本業務は、四季折々の良好な景観を創出するため、各作業においては作業時期を逸することなく的確な管理を行うこと。特に花木の剪定、施肥、薬剤散布にあたっては適切な時期を逃さないよう留意すること。

・受注者は、各年度における異常気象や気候変動による植物の生育の異変・思わぬ事態の発生等が生じた場合には、当初に想定していた作業・数量を変更するなど、対策について監督職員と密に連絡を取り合い、主体的に対応策を検討・実施していくこと。

・受注者は、管理技術者及び１名以上の作業責任者（以下「常駐責任者」）を常駐配置し、枯枝や枯損木、倒木等の発生や鑑賞性低下につながる植栽の異変などを見逃さないよう、また、美観を損なう空間を生じさせ無いよう、常に常駐責任者に現場状況を把握（※）させ、異変を発見した場合には、適切な対応措置を実施する。また、受注者は、安全・安心、快適な庭園鑑賞を確保するため、適期・適切な作業を実施すること。

※常駐責任者は、毎日、庭園内の巡視点検を行うこと。巡視点検の結果については、適宜、監督職員に任意様式で報告することとするが、週１回又は提案頻度で、別添の修景チェックシートで、監督職員に報告・提出すること。

・受注者は、景観監理者に定期的に庭園内の見回りチェックを実施させる。景観監理者は、景観の質とバランスなどを確認し、各景における修景作業の要否と方向性を管理技術者に伝えること。管理技術者は、景観監理者からの報告を踏まえ、監督職員と協議の上、修景管理に反映させること。また、景観監理者は、各景における修景作業（芝刈や草刈、低木刈込等の毎年実施する定期作業ではなく、景観の質の改善等に寄与した修景作業）の実施結果を、別添の景観管理記録シート又は準じるシートに記録し、各年度単位で取りまとめて監督職員に報告・提出すること。

　なお、万博日本庭園は、庭園景観に精通した専門家などの監修を受けることで、質の高い景観を維持していることから、監督職員と協議の上、専門家のチェックを取り入れた修景管理に取り組むこと。

・受注者は、台風・大雨などの風水害や地震発生時には、監督職員からの指示の有無に関係なく、庭園全域の被害状況調査を行い、結果を監督職員に報告・提出するとともに、必要な対応措置を行うこと。特に台風などによる風水害が想定される場合は、事前に即応体制を整え、監督職員等より指示があった場合には速やかに対応すること。

・開園時間（９時３０分～１７時）内に作業に入る場合は、監督職員と協議の上、来園者に対して危険度の少ない作業（除草、集芝等）をすること。

・伐採、芝刈、薬剤散布等の来園者に対して危険度の大きい作業については、定休日もしくは開園時間（９時３０分～１７時）外に作業すること。

・正面３号棟休憩所から見える範囲に付いては、来園者の最も多い時間帯（１２時～１５時）は、作業に入らないこと。

　　　・本業務は企画提案業務であり、かつ高い管理品質を求めている業務であることから、樹木や芝生

等の維持管理の不行き届き（例 水切れ、剪定の時期・方法等）によって樹木や芝生等が枯損等状

態悪化した場合や、時期を逸脱して作業（例 本来すべき時期に除草ができていないなど）を行う

場合は、受注者の責（※）により補修や作業等を行うこと。

※本業務の出来高には含めない。本業務の受注者は、高い技術と大規模な日本庭園を管理する

能力を有していることが前提の為。

　　　・本業務において、常用で使用する道具や機材（ダンプやユニック車などの常用車両含む）については、受注者の責任で準備すること。

**(2)剪定**

・剪定は、自然樹形を維持するための枝抜き剪定を基本とする。また、ハサミを入れる方向を選んで、切り口が見えないように美しく切ることとし、鋸等を入れた場合は、切断面の殺菌保護被覆及び目立たなくすることを目的として、癒合材を塗布する。花木は、花芽が形成される前に適切に剪定すること。

・剪定にあたっては、必要であれば見本剪定を行い、監督職員の承諾を受けた後に作業すること。

**(3)施肥**

・施肥については、設計図書に記載する数量を効果的な時期に効果的な方法で実施すること。

**(4)芝刈**

・日本庭園の芝生はコウライ芝であるため、他所から別種の芝が混入しないように、芝刈機を共用しないなどの必要な措置をとること。

・芝刈りについては、モアの走行方向には注意し、刈り跡を残さないように刈ること。

**(5)農薬の使用**

・本業務では、日本庭園の景観を良好な状態で維持することを目的としているため、殺虫剤・殺菌剤・除草剤等農薬の使用を想定している。

・日本庭園内は、芝生地の中に樹木が多く植えられているので、除草剤散布作業について細心の注意をはらい、樹木にかからないように散布すること。また、日本庭園芝生地内にある名木（黒松、枝垂桜等）がある付近については、除草剤を名木の根のある所には散布しないこと。

・薬剤散布の実施については、その対象・時期・効果に合わせて当初想定の薬剤とは違う種類を散布する可能性がある。そのため、その都度監督職員と協議し、変更も含めて最も効果の高い薬剤散布を実施すること。

・農薬の使用にあたっては、農薬取締法、各種ガイドライン・マニュアルを遵守するとともに、調合量、使用方法等その薬剤に定められている仕様を逸脱しないこと。

・劇物・毒物に指定されている農薬を使用せざるを得ない場合は、取り扱い基準を確認の上、周辺の生物生息環境等に及ぼす影響を把握し、極力影響の出ない方法にて散布作業を行うこと。

・散布作業は、緊急性のもの以外は来園者の安全確保および景観維持のため、休園日（水曜日）もしくは開園時間外に行うこと。

・やむを得ず緊急対応を行う場合は、来園者と十分な間隔を取り、散布薬剤が掛かったり、散布機械の騒音等による不快感を与えたりしないよう留意すること

**(6)作業機器・資材の備蓄**

・資材用倉庫として７号棟の一区画及び３工区倉庫の一区画、菖蒲の苗床管理の作業スペースとして第四苗圃、また事務スペースとして中央休憩所一階事務所（西端のスペース）を、受注者に貸与するものとする。貸与された区画を使用する場合、受注者は鍵の保管、戸締り等防犯・安全衛生にかかる措置を行うこと。

・７号棟の一区画に作業道具等を置く場合には、７号棟前面から作業道具等が見えないように配慮すること。また、刃物等の危険物に関しては、来園者等が持ち出さないように鍵のかかる場所へ厳重に保管すること。

・上記の区画貸与の手続きに当たっては、別途、指定管理者とも必要に応じて協議調整を行うも

のとする。

　　　・中央休憩所一階事務所入り口周辺に自転車及び作業道具等を置く場合、通路の西側（建物側）

に置き、池への眺望を妨げないよう留意すること。

**(7)剪定枝・除草屑等作業にて発生した植物残渣の処理について**

・監督職員から特に指示が無い場合は、全て園内リサイクルヤードの指定された場所に運搬すること。搬入に当たっては、指定管理者と協議の上、搬入ルールに従って適切に搬入すること。

・園内の植物残渣は堆肥等の原材料になるため、植物残渣への瓦礫、石、ゴミの混入は厳に慎むこと。

・除草、集草作業時に作業エリアに散乱している空き缶やゴミ等は収集し、分別して園内のくずかごに投棄すること。

**(8)イベント等への協力**

・対象となる園地で、年間を通じて以下のイベントが実施される可能性があるため、受注者はこれらイベントが実施される場合には協力するとともに、イベント時に実施される来園者アンケート調査結果にて好評価を得られるように植栽管理業務に努めること。

５月下旬～６月上旬　「蛍の夕べ」　　　　　　　日本庭園西地区

７月　　　　　　　　「早朝観蓮会」等　　　　　「はす池」

１１月　　　　　　　「紅葉まつり」　　　　　　日本庭園全域

２月中旬～３月中旬　「梅まつり」　　　　　　　梅林

・イベント等の内容、開催時期について監督職員に確認をし、開催に支障をきたさないよう育成管理すること。

・また、以下の園内発生物販売が実施されている。受注者はこれらの収穫・提供に協力すること。

４月　　　　　　タケノコの販売

１０月～１１月　ハチス（ハスの花托）の販売

その他　　　　　自然学習館実施の体験学習における工作材料の提供

・作業風景も景観の一部である。イベント時の作業については来園者に対し不快・不安の念を抱かるような喫煙場所以外での喫煙、座り込み、資材・機材の放置、高速での作業車両走行は厳に慎むこと。

**(9)次年度管理における数量等の把握等**

・次年度の管理に向けて各対象花木等において、品種・本数のカウントを行い、設計数量を把握する必要があるため、受注者はこの作業に協力すること。

・添付している図面（芝刈図等）以外に、受注後に必要な管理図面を監督職員より提供するので、それらを確認の上、現場と異なる点があれば、監督職員に報告し、必要に応じて、管理図面の訂正作業等に協力すること

**(10)目標水準**

・管理の合格水準として参考値ではあるが、各イベントで実施される来園者アンケートにおいて「良い」が50％、「良い」と「やや良い」の合計が80％以上を目標とする。

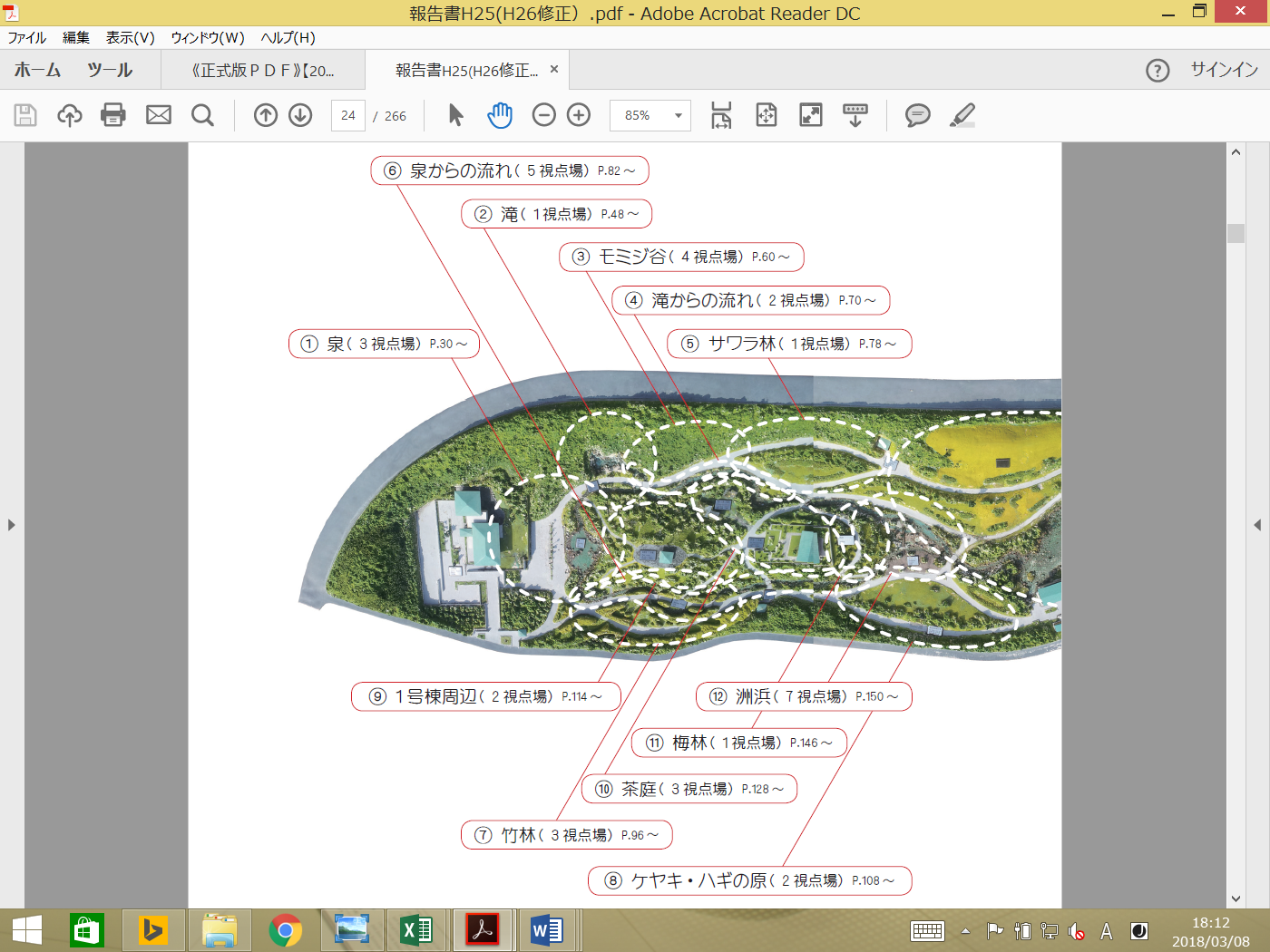
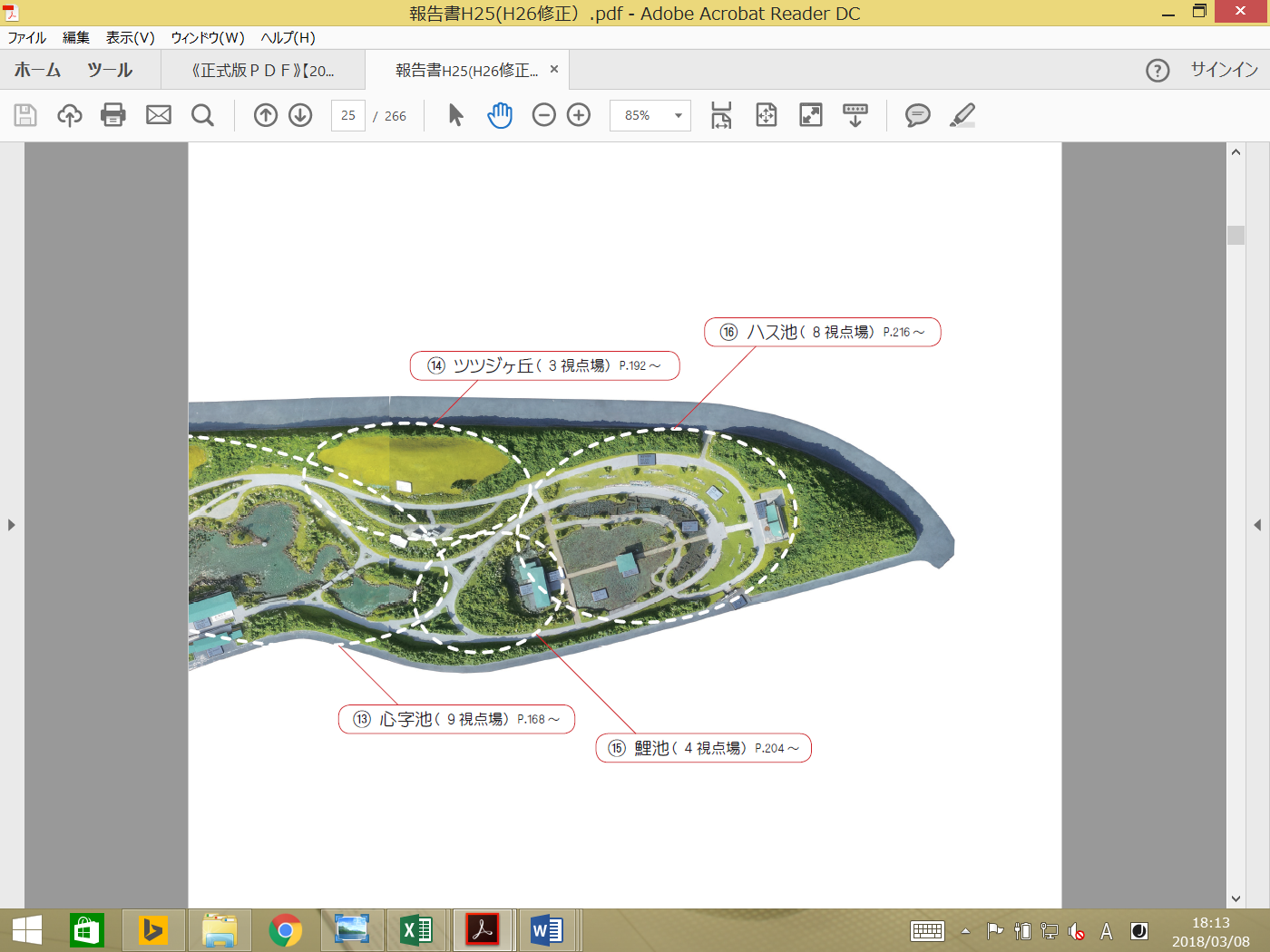
**(11)その他**

・対象となる園地は、本園の景観スポットであり、毎年時期になると多くの見学者・カメラマンが訪れる。受注者は、これら来園者とのトラブルが発生しないよう注意しつつ、必要な作業を行うこと。

・対象となる園地は、各地から研究機関関係者・自治体等類似施設管理者が視察・研究に訪れる。受注者はこれらの対応を公園事務所が行う際に協力すること。

・当公園は整備時期が古いため、常に対象となる園地およびその周辺では、修繕・改修工事が行われていることから、受注者はこれらの工事の関係者と協力し、トラブルの発生無きよう努めること。

　　・作庭意図と「日本庭園景観整備方針」を踏まえ、平成28年度 緑整備部会（第3者の専門有識者で構成される日本庭園等の調査審議委員会）において審議された八景（見所景観）を含む16の主要景観毎の景観目標を下記に示す。これを念頭に、八景を含む主要景観とそれら景をつなぐ園地において、奥行きと連続性のある豊かな空間性をもった景観づくりをすすめていくよう、効果的な植栽管理を行うこと。





**(12)業務作業の仕分けについて**

・本業務は以下の４つの業務に大別され、それらの業務の中でさらに作業趣旨に応じて大きく「基本管理」、「順応管理」、「更新管理」の3つの管理作業に区分される。内容は以下のとおりである。

◆業務区分

①見所修景管理

見所景観（「八景」）について、大きく生長した樹木への対応など、新たな課題の解決策となる修景手法の提案にもとづき、樹木の生長を予測した仕立直しや間伐、植替や補植、植栽基盤の改善等による、植栽等景観の維持・修復などの育成管理を実施する。

②周辺修景管理

　　　　見所景観（「八景」）をつなぐ園路・流れ沿いの植栽地について、樹林の鬱閉化への対応など、新たな課題の解決策となる修景手法の提案にもとづき、空間の奥行き感を向上させる剪定・間伐、芝生・林床植栽の手入れ、四季を彩る花木や草花の育成、風倒被害植生の回復等による、植栽等景観の維持・修復などの育成管理を実施する。

③茶庭修景管理

　　　　万博日本庭園内にある三つの茶室「千里庵」、「汎庵」、「万里庵」の周りにある枯山水、苔庭、露地等の小庭について、周辺環境を取り込んだ景観づくりなど、新たな課題の解決策となる修景手法の提案にもとづき、周辺樹木を含む剪定、芝刈・除草、コケ育成、落ち葉掻き等のきめ細かな手入れによる、茶庭景観の維持・修復などの育成管理を実施する。

④園芸花卉修景管理

　　現代庭園地区の主要景観である花菖蒲田のハナショウブ、ハス池のハスなどの鑑賞性の高い草花について、草花の植替、施肥、除草、株分け、薬剤散布等による、草花景観の維持・修復・改修などの育成管理を実施する。

◆作業区分

「基本管理」（通常管理）

良好な景観と植物の生育を維持するために、原則数量が変化せず、毎年決まって実施される

作業。中低木の剪定・刈込、芝刈、林床等の草刈、除草、高木剪定、施肥、定期的な植替え

等作業である。

「順応管理」（不定期管理）

計画時には数量を想定しているが、主に前景・中景を構成する中高木の樹形維持と樹木の生長等による景観への影響改善をはじめ、当該年の自然条件、樹木の生理、台風等災害等への対応のために、その出来高の増減が発生する可能性の高い作業。中高木を中心とした整枝剪定・間伐をはじめ、薬剤散布、潅水、倒木・枯損木処理、枯枝処理、補植、緊急対応除草、施設修繕、その他緑地補修等の作業である。

「更新管理」（維持的修景整備）

斜面林や外周林による透ける背景づくりや園外施設の景観的影響緩和、中景を構成する樹木・樹林による（各景を）繋ぐ中景づくり、植物の腐朽や枯損による倒木等の事故発生リスク回避、利用者ニーズ等への対応などのために、事前に更新・対策を行うことで、景観の質の向上や連続性確保、重大事故回避、快適性向上等の利用促進などを実現する作業。具体的には、樹林密度の改善、補植、改植、土壌改良、日照確保の為の伐採、造園施設の設置・改修などの小規模更新作業である。

なお、更新管理は毎年行われる作業ではなく、中長期の複数年計画に併せて必要年度に実施される作業である。

**【見所及び周辺の修景管理】**

**２　恒常的景観管理**

**(１)基本方針、**

**１）方針**

・汎庵・万里庵の苔庭及び千里庵の枯山水庭園の管理を除く、日本庭園全域の景観保全を目的とした剪定・除草等の作業に適用する。

・日本庭園の植栽管理には、一本一本の植栽の管理というところに重きをおく以上に、植栽は庭園が表現する景の構成要素のひとつであることを念頭に、各々の景がどのような姿を表現しているのかを理解したうえで、個別の構成要素の管理にあたる。

・景観ポイントごとの重点管理は、「日本庭園景観整備方針」を参考にしながら管理を行い、それと並行して、景と景をつなぐ「園内回り景の管理」にも心がける。

・銘木となるような樹木は、その個性や役割を生かし管理していく。

・除伐対象木や更新が必要な生育不良木、重要な背景林などを見極めたうえで、八景などの視点場から、主役となっている景観木、石組護岸、水際、見通しが際立つような修景作業から優先的に行う。

**２）留意事項**

・景観木の維持管理においては、枝先で切りそろえることをせずに、大きく枝を抜いて樹木のふところ枝をいかし、高さをおさえながら（切戻し）、全体を縮めることを繰り返す作業を心がける。

・稜線から飛び出たような樹木は、遠景で確認しながら枝うちや間引きを行う。

・各作業において疑義が発生した場合は監督職員と日々協議し諸問題に対処していくこと。

**(２) 基本管理**

**１）名木クロマツ緑摘み**

・日本庭園内名木クロマツ20本について、みどり摘みを出雲地方の手法により行う。

・作業は、6月又は3月に樹勢をみて行い、先ず枝を透かし、芽数を減らしたうえで、みどり摘みを行う。

・なお樹勢が弱っている等、みどり摘みを行うことが適切でない場合は、監督職員と対応について協議し、方針を決定する。

**２）整枝　低木・中木**

・日本庭園植栽景観管理マニュアル記載の16ポイント58視点場を十分に把握した上で、低・中木の剪定作業を行うこと。

・花木に関しては、翌年以降の花つき等を考慮して、剪定時期を決定すること。

・低木剪定に関しては、90cm以下についてはイヌツゲ、アオキ、カンツバキ等、90～180cmについてはツバキ、サザンカ等の低木として管理する樹木全般を対象としている。

・中木剪定に関しては、ツバキ、サザンカ、キンモクセイ等の中木として管理する樹木全般を対象としている。

・剪定は、基本方針に合致するように行うこととし、自然樹形仕立てになるように（かつ樹形を維持できるように）、懐枝や枝葉の濃淡のバランスに注意して、適切に枝抜きを行うこと。特に、刈込された中低木の場合には、中枝に光が入るように、大きく枝抜きを行うこと。

・剪定対象木は、樹形や樹勢、景観のバランスなどを踏まえて判断し、監督職員に確認のうえ決定する。なお、毎年剪定する樹木や複数年に１回剪定する樹木など、状況に応じて、いくつかのケースがある。

**３）クロマツ剪定(一般)**

・剪定は年1回、時期は２月とし、1号棟周辺、千里庵周辺（梅林含む）のクロマツについて自然風に剪定を行うこと。また、古葉ふるいも同時に行うこと。

・同じ高さで単調な風景とならないよう、また、枝を切り詰めることはせず、枝張りは自然樹形に見えるように仕立てることを心がけること。

**４）ヤナギ剪定**

・花しょうぶ田、ハス池周辺のシダレヤナギについて冬期に剪定を行うこと。

**５）ヤナギ裾刈り剪定**

・花しょうぶ田、ハス池周辺の来園者の通行の阻害となっているシダレヤナギの枝について裾刈り剪定を行うこと。

**６）幹吹剪定**

・サクラ類について幹吹剪定を行うこと。

・切り口には、腐食防止のため癒合剤を塗布すること。

・主幹に枯れがある等、幹の更新が必要な場合は、監督職員と協議の上、作業を行うこと。

**７）ダイミョウチク剪定**

・千里庵周辺のダイミョウチクについて剪定及び古竹の間引きを行うこと。

**８）クロチク剪定**

・千里庵周辺のクロチクについて剪定及び古竹の間引きを行うこと。

**９）フジ棚裾刈**

・年２回、日本庭園内の5箇所の藤棚において、ツルが垂れ下がり、景観を害していたり、ベンチ等の利用の妨げとなったりした場合に適用する。

**10）フジ棚剪定**

・日本庭園内の5箇所の藤棚において、年2回（花後、冬期）の剪定を行うこと。

**11）低木剪定**

・一般低木についての剪定に適用する。

・剪定樹種に関しては、90cm以下はアジサイ、ドウダンツツジ、レンギョウ、ヤマブキ、ボケ等の樹木91～180cmは、ウツギ、ハギ、モチツツジ、ミツバツツジ、ヒラドツツジ等を想定している。

・樹種の特性を考え、剪定時期を調整し作業を行うこと。

・作業箇所、剪定方法については、監督職員と協議すること。

**12）低木刈込(弱刈込)**

・一般低木についての刈り込みによる弱剪定に適用する。

・樹種に関しては、ウバメガシ、アベリア、シャリンバイ、サツキ、キリシマツツジ、クルメツツジ等を想定している。

・作業箇所、剪定方法については、監督職員と協議すること。

**13）低木刈込(一般刈込)**

・一般低木について、刈り込みによる一般剪定に適用する。

・園路際の大刈込みについては、刈込み曲線がきつい仕上げとならないように、風景として検証を行い仕上げること。

・樹種に関しては、キンモクセイ、ヒイラギ、ヒイラギモクセイ、ヒラドツツジ、クチナシ、ツゲ、モッコク等を想定している。

・作業箇所、剪定方法については、監督職員と協議すること。

**14）クマザサ等刈込み**

・千里庵及び外周付近に生育するクマザサ等の刈り込みに適用する。

**15）ササ剪定**

・正門前のオカメザサ等を対象とし、剪定鋏を用いて、ササの稈の間引き（地際切除）又は先端の切戻の作業に適用する。

**16）水生花壇施肥**

・普通化成肥料を適切な時期（冬期を想定）に年1回施用すること。

・肥料は普通化成（8－8－8）を想定している。

**17）芝生地施肥**

・芝生の良好な生育状態を維持するため、適切な時期に年1回（11～12月を想定）施用すること。

・肥料は、普通化成（8－8－8）を想定している。

**18）水草刈取**

・水生花壇において、ガマ等の繁茂した水草を人力で刈り取ることに適用する。

**19）芝刈(小面積)**

・数量計算書記載の回数内で、来園者の多い時期に最良の芝生状態を保持するように計画的に作業すること。

**20）除草**

・各種除草作業を数量計算書記載の回数内で、最良の景観を維持するように適切な時期に実施すること。

・付近地処分の場合、園路等から来園者に見えない場所へ処分すること。

**21）斜面地花壇管理**

・現代地区斜面地花壇におけるシャクヤクの管理（芽かき、剪定、花ガラ摘み、施肥、株分け等）に適用する。

・施肥に関しては、普通化成（8－8－8）をシャクヤクの伸長期の適期（6月ごろを想定）に1回散布し、冬期（2月～3月ごろを想定）に油粕を株元に軽く土と混ぜるように施すこと。

**22）クロマツこも巻き**

・名木クロマツ20本の「こも」を巻き、および撤去に適用する。

・時期に関しては、監督職員と協議すること。

**(３)順応管理**

**１）整枝　高木**

・「日本庭園景観整備方針」記載の16景58視点場を十分に把握した上で、高木の剪定作業を行うこと。

・花木に関しては、翌年以降の花つき等を考慮して、剪定時期を決定すること。

・高木の剪定は、常緑樹を中心に行う。心字池周辺の常緑樹をはじめ、園路沿いの景観ポイント木を覆う樹木を重点的に行う。その他の景観ポイントについては、監督員と協議の上、場所・本数を選定すること。また、手法に関しては自然樹形を保つように枝透かしを中心とした方法をとること。

・外周林の園路沿い等に見られる、常緑樹を中心とした下枝が地面近くまで垂れ下がっている高木については、下枝払いを行う。対象樹木の選定や対応本数については、監督員と協議の上決定すること。

・高木の剪定に関しては、一本の樹木の剪定ではなく、周囲の木々との調和を考えながら、樹高が一定にならないように調節するなど、景観をつくることに主眼を置いた剪定とすること。

・剪定は、基本方針に合致するように行うこととし、自然樹形仕立てになるように（かつ樹形を維持できるように）、懐枝や枝葉の濃淡のバランスに注意して、適切に枝抜きを行うこと。

**２）枝撤去**

・樹冠内で1から5本程度の枝抜きを要する樹木に適用する。

・支障枝、枯枝等の撤去についても適用する。

**３）夏期剪定(中木)**

・(2)-２）以外の樹木を対象とし、樹種に対応した剪定作業を6月～秋期にかけて行うこと。

**４）冬期剪定**

・サルスベリ、トウカエデ等落葉樹の剪定に適用する。

・サルスベリの剪定に関しては、毎年同じところで剪定することで枝先がこぶ状の樹形となってしまうため、枝を透かす方法で、細かい枝を作り、自然風の樹形とすること。（日本庭園景観整備方針参照）

**５）ススキ刈取**

・庭園内全域を対象として点在するススキ（流沿いや植栽地）の刈取りに適用する。

・年1回～2回を想定しており、6月上旬は地際より15cm程度残して刈り取り、12月は地際で刈り取りを想定しているが、繁茂状況や生育良否により、監督職員と協議の上、刈取の箇所や頻度・方法を決定すること。

**６）洲浜管理**

・洲浜において、流れの清掃（落ち葉取り除き）、雨水等で流れ込んだ土砂等取除き、除草作業に適用する。

**７）セキショウ取除**

・泉から洲浜にかけての南北の流れについて、繁茂しすぎたセキショウ（ドクダミなども含む）を人力で、取除くことに適用する。

**８）巡回除草（機械除草、人力抜取除草、人力切取除草）**

・主に園路沿いや流れ沿いの植栽地において、雑草が繁茂し見苦しい景観となっている箇所を対象とした巡回除草作業に適用する。

**９）竹林間伐**

・日本庭園内竹林の管理間伐を行うことに適用する（時期は１１～２月ごろを想定）。

・竹の生育状況や密度等に留意して、作業箇所、数量等を監督職員と協議すること。

**10）芝生除草剤散布**

・雑草防除に効果がでる時期と手法の検討を行い、気象条件等を考慮して行うこと。

・除草剤を使用するときは、周辺の花木等にかからないように留意し行うこと。

**11）除草剤散布**

・雑草の手抜き作業が難しく、繁殖力が旺盛な雑草については、スポット処理で早期に対処する。

・除草剤を散布する場合、池や流れに流入しないよう留意すること。

**12）潅水**

・スプリンクラーが散布できない箇所等において、夏期渇水期を中心に、植物の生育状況を踏まえ、必要に応じて潅水を行うこと。

**13）落葉清掃**

・落葉時の芝生、除草等において、作業上取除く必要がある場合に適用する。また、外周側溝などを対象に、管理上取除く必要がある場合の側溝清掃にも適用する。

**14）高木施肥**

・ソメイヨシノを主とした樹勢の芳しくない高木類に対して適用する。

・樹冠部の地面に穴を掘り、その中に肥料を入れ、埋め戻すこと。・対象木は、監督職員と協議して決定すること。

・肥料は固形肥料（丸山1号）等を想定しており、幹回り30cm以上60cm未満で1本あたり0.5㎏、幹回り60cm以上90cm未満で1本あたり0.6㎏、幹回り90cm以上120cm未満で1本あたり0.8㎏、幹回り120cm以上で1本あたり1㎏を根まわりに溝または穴を掘って深さ15～30cmに埋め込むこととする。

・対象樹木と施肥の時期は、花後のお礼肥や寒肥など、目的や樹木の生育状態に応じて行うことから、監督職員と協議の上、決定する。

**15）低木施肥**

・生育の芳しくない低木類に対して適用する。

・対象木は、監督職員と協議して決定すること。

・肥料は固形肥料（丸山1号）等を想定しており、1株あたり0.05㎏を根まわりに溝または穴を掘って深さ15～30cmに埋め込むこととする。

・対象樹木と施肥の時期は、花後のお礼肥や寒肥など、目的や樹木の生育状態に応じて行うことから、監督職員と協議の上、決定する。

**16）樹勢回復**

①樹勢回復

・著しく生育が悪い樹木（芯が枯れている、枝枯れが頻繁に起こるなど）に対して、発根促進を促すために行う作業。

・樹木の根元周囲の土をエアースコップでほぐすとともに、用土（真砂土とバーク堆肥又は万博

堆肥30％配合の混合土）を補充し、水鉢の作り直しを行う。＊補充用土：0.1m3程度

・樹木の新根誘導を図るため、オーガとエアースコップを用いて、樹木の根元より直径２ｍの円

上に8か所ほど縦穴（φ10ｃｍ・深さ40cm）を掘り、土壌改良材（真砂土・炭・軽石・酵素入り鉱物繊維改良材・化成肥料・バーク堆肥又は万博堆肥）を投入。

・なお、8か所の穴を掘る円の直径や土壌改良材の配合割合については、下記を想定しているが、樹木の状態に応じて、監督職員と協議の上、同等以上の方法で施工すること。

　（想定例）

　　・新根誘導を図るため、オーガとエアースコップを用いて、樹木の根元より直径２ｍの円上に8か所ほど縦穴（φ10～20ｃｍ・深さ50～60cm）を掘り、土壌改良材（真砂土・燻炭・軽石・化成肥料・バーク堆肥、DOパイプ）を投入。

・樹木一本に対して、バーク堆肥200L、燻炭150L、軽石90L、グリーンパイル５本、DOパイプ４セットを想定。

②腐朽診断・処置

・腐朽部処理にあたっては、腐朽菌に冒されている樹木について、樹木医が現状箇所、原因、今後の治療方法等をまとめ、監督職員と協議した上、樹木医の指導の下、適正な治療を行うものとする。腐朽処理対象部の大きさは、監督職員が決定するものとし、１箇所あたりの腐朽処理部の大きさは、直径15㎝内外（面積換算225ｃ㎡内外）とし、これ以下の形状の場合は、２箇所以上の患部径の合計が15㎝で１箇所としてカウントする。

**17）緑地補修**

・提案協議又は監督職員の指示により補修が必要な箇所の補修に適用する。

・現時点で想定される作業

◯外周部の溝の清掃

◯種名看板などの設置・交換

◯樹勢回復のための作業（排水改善や根系伸長誘導などを目的とした植栽基盤改良など）

◯補植・改植などの作業（例 サワラ林の植生回復や水生花壇の修復など）

○造園施設の修繕などの作業

**18）巡回管理**

・きめ細かな景観づくりを行うため、庭園内全域を対象として、必要なところの除草、剪定・刈込

、造園施設の小修繕等の基本管理作業や順応管理作業を、2～3名程度の作業員が巡回しながら

行う。

作業内容や作業回数については、監督職員と協議の上、決定する。なお、巡回管理の実施に当

たっては、巡回管理作業に専念するため別班体制（単独班体制）で行うこと。

**19）支障木撤去 (運搬込)**

・景観上の支障木、植栽密度の高い樹林地について、間伐を実施する場合適用する。

**20）枯木撤去 (運搬込)**

・枯損木について、撤去を行う場合適用する。

**(４)更新管理**

**１）樹林整枝**

・景観の奥行きを損なう常緑樹を中心とした樹林を対象とし、樹林全体に大枝抜きや整枝剪定を行う。対象樹林の選定や整枝剪定本数については、監督員と協議の上決定すること。

**２）樹林密度改善**

**・**園路等からの景観の背景を構成する常緑高木の密度が高い樹林を対象とし、大枝抜きや間伐等を行い、前景と連続し奥行きが感じられる景観とする。対象樹林の選定や対応すべき整枝剪定本数や支障木撤去等の間伐本数については、監督員と協議の上決定すること。

**３）樹林等更新**

・斜面林や外周林等、常緑樹が多くを占め暗く閉鎖的な背景となっている樹林を対象とし、中長期的に落葉樹の割合を増やすべく、一部植え替えを行う。対象樹林の選定等については、監督員と協議の上決定すること。

・見所景観（八景）や園路・流れ沿いの園地を対象とし、大枝抜きや間伐、景観木等の改植や新植などを行い、魅力的な景観創出を図る。対象範囲の選定については、監督員と協議の上決定すること。

**３　梅林管理**

**(1)基本方針**

**１）現況と方針**

・本業務は、日本庭園内「梅林」の39品種68本を対象とする。

・２～３月に「つばき祭り」とあわせて自然文化園「梅林」を中心に、「うめ祭り」が開催され、６月には同梅林で収穫された梅の実の販売が行われる。

・「梅まつり」の際に来園者ニーズを満足させる良好な景観を作り出すことが梅林管理の基本方針である。

**２）留意事項**

・万博記念公園の梅林は、花付きと実の充実の相反する目的を要求されている。そのため、選定時期や手法、管理についてはベストよりベターを従事することにしており、臨機の対応も多く発生するので、十分理解のうえ作業を実施すること。

・H24年度に伊丹市界隈で発生したPPVについて、万博記念公園の梅も羅病のリスクを抱えている。そのため、枝の場外持ち出しおよび他所の梅の持ち込みは厳に慎むとともに、常に園内を観察し異常を確認すれば、直ちに監督職員に連絡し、指示を受け、対応を実施すること。

**(2)基本管理**

**１）剪定**

**①夏期剪定（中高木）・夏期剪定（低木）**

・梅林内の梅景観を良好に保ち、イベント等において来園者ニーズを満足させることを目的とする。

・作業は５～６月に実施すること。

・なるべく花を多くつけること・風通しを良くしてアブラムシ等病害虫害を抑えることを目的に剪定すること。

・剪定方法は主に、徒長枝の枝先を止め分枝が多くなる剪定を行うこと。

**２）施肥**

・花期の花付きを良くし、ウメの生育を促進させることを目的とする。

・施用は年１回（12月）を想定している。

**①高木施肥**

・中高木１本あたりW15cm、H15cmの施肥穴を４箇所程度設置する。

・施肥後、施肥穴を埋めること。

・一回あたりの施用量は以下のとおり。

普通化成（8-8-8） 500g/本　　　多木化成８号

乾燥鶏糞　　　　　 2,000g/本

**②低木施肥**

・低木であるが、中高木と同じ１本あたりW15cm、H15cmの施肥穴を４箇所程度設置する。

・施肥後、施肥穴を埋めること。

・一回あたりの施用量は以下のとおり。

普通化成（8-8-8） 100g/本　　　多木化成８号

乾燥鶏糞　　　　　 400g/本

**(3)順応管理**

**１）冬期枝整理**

・樹形が崩れている梅において、徒長枝の除去や枯れ枝の撤去のための枝整理を行う。

・作業時期は、1～2月を想定している。

・作業に従事した作業員の人工数を出来高とすること。

**２）緑地補修**

・設計書に記載されていないが、監督職員の指示により実施した作業を定められた変換値により算出し、出来高として計上すること。

・現時点で想定される作業

○日照障害を起こす可能性のある樹木の剪定・伐採

○生育劣化箇所の土壌改良

**３）高木剪定**

・梅林周囲の高木の高さを抑える剪定を行う。

**(4)更新管理**

・樹勢回復の為の植栽基盤の改善などを行い、梅林景観の向上を図る。対応範囲や対応本数については、監督員と協議の上決定すること。

**４　芝刈更生**

**(1)基本方針**

**１）現況と方針**

・現況は地表面固結が進み、これに伴う芝生地特有の雑草繁茂・病害発生・裸地化している状態である。

・芝高を一定に保つことにより、芝山の景観を維持することに併せ、芝刈を継続することにより、侵入する雑草を駆除することを方針とする。

**２）留意事項**

・各作業において疑義が発生した場合は監督職員と日々協議し諸問題に対処していくこと。

**(2)基本管理**

**１）芝刈・肩掛式**

・来園者の少ない時間を選び、ｷﾞｬﾝｸﾞﾓｱｰ、ﾛｰﾀﾘｰﾓｱｰなどを使い来園者等に危害のないように心がけて、早朝及び夕方の来園者の少ない時間帯に主に作業を行うこと。

・やむを得ず日中作業を行う場合には、監督職員と協議の上、ｶﾗｰｺｰﾝなどで安全対策をして作業を行うこと。

・桜など腐朽しやすい樹木付近で作業するときは、幹、根を傷つけないように特に注意して作業を行うこと。やむを得ず傷つけた場合は、監督職員に報告するとともに、受注者の責任において処置を行うこと。

・刈込高は35mmを標準とするが、メヒシバ発芽時期（5月頃）には高刈するなど、作業時期や芝の生育状況、作業後の芝生の見栄えを考慮して、適切な刈込高で作業すること。また、作業後も芝生地としての美観を保つように、刈込方法や芝刈機の刃の状態にも注意を払い、最良の状態で刈込みを行うこと。

・作業は芝生、雑草等の繁茂の状況を常に観察し、効率的に行うこと。ただし、特別な事情が生じた場合は監督職員と協議すること。

・芝山は、中央休憩所から真正面に当たり、重要な景観となっていることから、芝刈機の通った刈後が、縞状にならないように細心の注意を払いながら作業を行うこと。

**２）施肥**

**①普通化成（小面積）**

・対象地は日本庭園芝山、心字池北、つつじヶ丘、及び斜面地花壇の大規模芝生地である。

・速効性普通化成（8-8-8）をサイクロンで散布すること。

・年２回作業とし、散布時期は６月、９月を想定している。

**②高度化成（部分施肥）**

・対象地は踏圧等による芝生の一部衰退箇所である。

・速効性高度化成（15-15-15）をサイクロンで散布すること。

・散布時期は4月～10月とする。

**③地力活性剤注入（EB-ａ）**

・対象地は踏圧等による芝生の一部衰退箇所である。

・土壌の団粒構造をつくる目的で、エアーバンダーで空隙が出来た所に注入する。

・芝生の生育期に実施すること。

**３）薬剤散布**

**①除草剤散布**

・大面積用の土壌処理剤の機械散布に当っては、所定量の薬剤が均一に投下されるよう、散布圧と車速を作業前に決定した上で散布すること。

・小面積の散布においても、大面積に準じ、所定量の薬剤がむらなく散布出来るように作業すること。

・土壌処理剤の散布に当っては、樹木、草花等への影響や、天候に注意して作業すること。

・特に利用者への配慮として、作業予定日と後日の天候には十分注意して作業すること。

・土壌処理剤・茎葉処理剤共に本来の性能を充分発揮できるよう、監督職員と協議の上作業すること。

・茎葉処理剤については、スポット処理を原則とし、薬量を節減するよう心がけること

・土壌処理剤に関しては、対象地は日本庭園芝山、心字池北、つつじヶ丘、及び斜面地花壇の大規模芝生地とし、薬剤はインダジフラム水和剤を想定しており、年２回雑草の発芽前の９月、２月頃行うこととする。

・茎葉処理剤に関しては、対象地は日本庭園芝山、心字池北、つつじヶ丘、及び斜面地花壇の大規模芝生地とし、薬剤はMCPP液剤、ｸﾞﾘﾎｻｰﾄｶﾘｳﾑ塩液剤（ラウンドアップマックスロード）　８０倍、ﾌﾗｻﾞｽﾙﾌﾛﾝ水和剤（シバゲンＤＦ）の3種類を想定しており、雑草生育期に散布すること。

・また、11月ごろにｸﾞﾘﾎｻｰﾄｶﾘｳﾑ塩液剤散布（ラウンドアップマックスロード）５倍　を葉面に塗布することにより、雑草の繁茂を抑えること。

**(3)順応管理**

**１）薬剤散布**

**①殺菌剤・殺虫剤散布**

・病害虫発生の初期防除に努め、スポット散布を基本とする。

・散布に際しては、来園者に危害を与えることのないよう留意する。

・稀釈濃度を確実に守り、薬害などが発生しないように留意する。

・作業者はマスク等を用いて、人体への影響がないように注意して作業すること。

・使用材料は監督職員に搬入･空袋検収を受け、使用後は危害のないよう処分すること。

・殺菌剤に関しては、対象地は日本庭園芝山、心字池北、つつじヶ丘、及び斜面地花壇の大規模芝生地とし、薬剤はﾁﾌﾙｻﾞﾐﾄﾞ水和剤、ﾌﾙｷｻﾋﾟﾛｷｻﾄﾞ水和剤を想定しており、ラージパッチ、フェアリーリング、春はげ症発生時に状況に応じてスポット散布すること。

・殺虫剤に関しては、対象地は日本庭園芝山、心字池北、つつじヶ丘、及び斜面地花壇の大規模芝生地とし、薬剤はスジキリヨトウやネキリムシ発生時にｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝ水和剤（フルスウイング水和剤）、シバオサゾウムシ・コガネムシ等発生時にﾀﾞｲｱｼﾞﾉﾝ・ﾒｿﾐﾙ粒剤（ランダイヤ粒剤）を想定しており、適宜散布すること。

**２）張芝育成**

・養生区域などに支給材料を使用して作業すること。

**３）その他管理**

**①芝生縁切**

・園路縁石沿に伸びた見苦しいランナーの除去や、電気蓋、散水栓などがよく見えるよう芝生の縁切りを作業する。

**②落葉かき**

・日本庭園大規模芝生地の樹木下等の落葉を初冬の時期に集め景観を高めるように努める。

**③人力集芝**

・スイーパーによる集芝ができない区域の芝カスを除去する。

**④人力切取除草**

・雑草の繁茂状況を常に観察し、監督職員と協議の上、行うこと。

（春期から夏期にスズノカタビラ、メヒシバ等を除去する）

**⑤雑草根株除去**

・スズメノヒエなど株が張り芝生の景観を壊す原因となる雑草については、スコップなどで丁寧に掘り取り、その跡に出来た穴は砂で埋め戻すこと。

**⑥緑地補修**

・監督職員の指示に従いその都度、適切な作業を行うこと。

**(4)更新管理**

・衰退した芝生の張替や、経年的に集積した芝カスの除去（サッチ分解剤の使用など）など、良好な芝生景観を育成するために必要な作業を行う。対応範囲については、監督員と協議の上、決定すること。

**【茶庭修景管理】**

**５　茶庭管理**

**(1)基本方針**

**１）現況と方針**

・千里庵の枯山水庭園、万里庵・汎庵の茶庭を良好な景観となるように管理していく。

**２）留意事項**

・茶室内の樹木は、特にきめ細やかな透かし剪定で手入れし枝ぶりを整えること。

・苔はいつも美しく管理するよう配慮すること。

・各作業において疑義が発生した場合は監督職員と日々協議し諸問題に対処していくこと。

**(2) 基本管理**

**１）芝生管理**

・千里庵の庭の芝生管理に適用する。

・枯山水庭園の芝生を良好な状態に保つため、芝刈り、施肥、除草剤散布, 落ち葉かき等の管理を行うこと。

・肥料は普通化成（8－8－8）を年2回（7月ごろと11月ごろを想定する）散布することを想定している。

・また除草剤散布に関しては、インダジフラム水和剤を想定しており、年1回（2月ごろを想定）施用すること。

・落ち葉かきに関しては、落葉樹の葉が落ち切った時期に年1回行うこと。

**(3)順応管理**

**１）樹木管理（樹木等庭管理）**

・汎庵・万里庵の茶庭の剪定・園路の清掃等の管理作業に適用する。

・茶庭の露地庭園に合った剪定等管理を行うこと。

・普段は非公開であるが、春と秋に一般公開を行うため、日程を調整し、公開時に不備のないよう管理を行うこと。

**２）芝生管理**

・千里庵の庭の芝生管理に適用する。

・千里庵の庭（枯山水庭園）の芝生を良好な状態に保つため、雑草類の人力除草を行うこと。なお、周辺の白川砂に雑草が生育する場合についても、適切に人力除草を行うこと。

**３）苔管理**

・汎庵・万里庵の茶庭の苔（スギゴケ）の管理に適用する。

・茶庭の苔が良好な景観となるように必要な作業を行うこと。

・夏季の乾燥時には灌水に留意して管理すること。

・3月頃に苔の刈込み行い、刈り取った苔をまきゴケとして散布し、苔の育成を図ること。

・適宜、川砂を篩などで散布し、苔の生育促進を図ること。

・普段は非公開であるが、春と秋に一般公開を行うため、日程を調整し、公開時に不備のないよう管理を行うこと。

・苔を良好に生育させるためには、適期・適切な除草を行うなど、きめ細かな管理が不可欠であることから、一般公開前に集中的に作業を行うのではなく、普段よりこまめに管理作業を行い、苔の良好な生育に努めること。

**(4)更新管理**

・衰退した苔の張替や土壌改良など、良好な苔景観を育成するために必要な作業を行う。対応範囲や土壌改良材の種類や配合割合については、監督員と協議の上、決定すること。

**【園芸花卉修景管理】**

**６　花菖蒲管理**

**(1)基本方針**

**１）現況と方針**

・主な対象は日本庭園内の「花菖蒲田」に植栽されるハナショウブ70品種以上、約20000株（3号ポットサイズのカウント）以上である。

・系統は大きく、江戸系、肥後系、伊勢系、その他に分かれる。

・固定開催イベントは無いが、毎年開花期には多くのカメラマンが撮影に訪れるスポットである。

・６月の開花期に来園者ニーズを満足させる良好な景観を作り出すことが花菖蒲田の管理基本方針である。

**２）留意事項**

・本園のハナショウブは、いや地回避のために各品種を3年ごとに別地に植え替えている。

・この株分け、養生、再植付けについては、細心の注意を払い、病害虫等の影響を排除すること。

・花菖蒲管理は、次項の菖蒲苗床管理と作業が常にリンクしている。そのため、作業計画の作成、作業の実施については、上手く連動して進捗を図ること。

・ハナショウブは開花直前水をためると一気に開花する。開花直前に人力除草を行い、作業後水をためて開花を促進させるが、その水の出し入れは日本庭園の機械設備管理者に連絡し実施すること。その調整も受注者が行うこと。

・本仕様書に示す、肥料や殺菌殺虫剤の種類や施工方法等については、一例にしかすぎず、受注者は、本仕様書にとらわれることなく、同等以上でより効果が期待でき方法を積極的に提案し、監督職員と協議の上、実施すること。

　　・植栽図面については、受注後に監督職員より受注者に渡す。

**(2)基本管理**

**１）人力除草**

・景観確保、生育保護のために実施する。

・対象はハナショウブが植栽されている花菖蒲田（1,641㎡）である。

・人力にて抜根除草を実施すること。また、特定外来生物であるアゾラも除去すること。

・花菖蒲田の除草時期は年7回（４月、５月、７月、８月、10月、11月、３月）を想定している。

・水路部の除草時期は年２回を想定している。

・人力除草で発生した除草屑は全て運搬処分である。

・除草作業が遅れると病虫害の原因となるばかりか、美観も悪くなるので、早めに作業するように努めること。

・作業にて、株を傷めないよう注意すること。

**２) 施肥**

・菜種油粕、長期有効肥料などを追肥・芽出し肥として年４回（９月～１１月に３回、３月に１回を想定）施用する。なお、肥料の効きを良くするため、肥料の種類を変えながら施肥を行なうこと。

・対象はハナショウブの植栽地（1,233㎡）である。９月～１１月の作業は新植地（株分けで掘り上げている箇所）を除く。

・施用では、できる限りハナショウブ苗に直接かからないよう均一に散布すること。

・施用量は以下の量を想定している。

○９月～１１月

　パターン例）

菜種油粕　　　　　　　　　　　　　 　　100g/㎡

普通化成（8-8-8） 　　　　　　　　　 100g/㎡　　　多木化成８号

地力活性剤　　　　　　　　　　　　　　　１L/㎡

○３月下旬

　パターン例）

菜種油粕　　　　　　　　　　　　　 　　100g/㎡

長期有効被覆肥料（10-18-15-微量要素）　100g/㎡ ハイコントロール085

地力活性剤　　　　　　　　　　　　　　　１L/㎡

　　　　　上記は肥料の一例なので、施工に当たっては、肥料の種類及び施肥量は、受注者の方で計画をたてて、監督職員と協議の上、実施すること。

**３) 病害虫防除**

・ハナショウブ管理における病害虫防除は予防散布を原則とする。

**①殺虫殺菌剤散布**

・ハナショウブの主な病気として黄縮病、軟腐病、さび病、白絹病等があり、その対応として殺菌剤を用い防除すること。

・ハナショウブに発生する主な害虫としてメイチュウ・ヨトウムシ・アザミウマ・アカダニ等があり、その対応として、殺虫剤を散布すること。

・この作業は予防散布である。病害虫が発生する前に散布するように、計画的に作業すること。

・２種混合で２パターンの薬剤散布を予定しており、作業時期は各々年３回（５月、７月、10月）を想定している。

・対象はハナショウブの植栽地（1,233㎡）である。10月の作業は新植地（株分けで掘り上げている箇所）を除く。

・予防散布であるので、予期せぬ時期に発生予兆があった場合、早急に散布を実施すること。

・２パターンの薬剤を同時に散布するのは認めない。

・効果を高めるため、薬剤散布は一回の作業あたり２度散布を行うこと。

・各々の薬剤散布パターンは以下のとおりである。

○パターン１　マラソン乳剤　　　　1,000倍液　　マラソン乳剤

　　　　　　　　キャプタン乳剤　　　1,500倍液　　トップジンＭ水和剤

　　　　　　　　展着剤　　　　　　　適量　　　　　アビオンＥ

○パターン２　MEP乳剤　　　　　　1,000倍液　　 スミチオン乳剤

　　　　　　　　キャプタン水和剤 800倍液　　　オーソサイド

　　　　　　　　展着剤　　　　　　　適量　　　　　アビオンＥ

**②殺菌剤散布**

・ハナショウブの主な病気として黄縮病、軟腐病、さび病、白絹病等があり、その対応として殺菌剤を用い防除すること。

・対象はハナショウブの植栽地（ 1,233㎡）である。

・散布時期は芽出し前と秋季の年２回（９月、３月）を想定している。

・薬剤散布パターンは以下を想定している。

全域（1,233㎡）　　　　　メタラキシル粒剤　10g/㎡　　ユニフォーム粒剤

・移行性薬剤のため、散布から薬効を発揮するまで約１ヶ月程度の時間が必要である。そのため、散布時期はそのタイムラグを考慮し計画すること。

**③殺虫剤散布**

・ハナショウブに発生する主な害虫としてメイチュウ・ヨトウムシ・アザミウマ・アカダニ等があり、その対応として、殺虫剤を散布すること。

・対象はハナショウブの植栽地（1,233㎡）である。

・散布時期は芽出し前と秋季の年２回（３月、９月）を想定している。

・薬剤散布パターンは以下を想定している。

○３・９月　　全域（1,233㎡）　　　　　アセフェート粒剤　8g/㎡　オルトラン粒剤

〇冬季　　　　　　　　　　　　　　　　 アセフェート水和剤

イミダクロプリド水和剤

・移行性薬剤のため、散布から薬効を発揮するまで約１ヶ月程度の時間が必要である。そのため、散布時期はそのタイムラグを考慮し計画すること。

**４）水路管理**

・花菖蒲田内に設けられている水路について、湛水する前（5月中旬まで）に高圧洗浄にて清掃を行うこと。なお、水路清掃と併せて、水路内の会所桝の清掃も行うこと。特に会所桝の清掃を行う際は、会所桝内に設置された排水ポンプの引き上げが必要になることから、ポンプを損傷させないように指定管理者と調整の上、作業を行うこと。

**５）菖蒲刈取**

・冬期に枯葉を残しておくと、翌年の芽出しの妨げとなるばかりか、病害虫の越冬場所となるので、芽出し促進及び病害虫防除を目的とし、冬期に一斉に人力刈取りすること。

・対象は株分け対象地以外の全株である。

・作業時期は、１月を想定している。

**６) 株分け**

・ハナショウブの生育を活性化させることを目的に、株分けを行い株の更新を図る。

・植替え対象地のハナショウブ株を掘り取り、株分けすること。なお、植替え対象地については監督職員と協議の上、決定する。

・株分け対象品種とその数量は別紙に記載している。

・作業時期は開花期終了直後（６月末～７月初旬）を想定している。

・株分けは、1芽割とすること。

・余剰株は監督職員が指定する場所に撤去すること。

・株分けの際、品種が混合しないように細心の注意を払うこと。

**７）鉢上げ**

・株分けした苗を４号ビニールポットにて、１.１㎥あたり以下材料を混合した改良土で植え付けること。

真砂土　　　　　　　　　　　　　　　1.02㎥（ルーズ）

土壌改良材（ピートモス：カナダ産）　110ℓ

土壌改良材（真珠岩系パーライト）　　110ℓ

土壌改良材（燻炭）　　　　　　　　　110ℓ

・鉢上げ作業は株分け作業と一連であるため、作業時期は同時期である。

・植付けの際は深植にならないように注意し、1ポットに2芽とすること。

・鉢上げした株は、第四苗圃の苗床（サンドベンチ）に品種が混ざらないように並べ、育成に備えること。

・鉢上げ株の数量は基本的に枯死等リスク回避のために一割予備苗を計算している。鉢上げの数量は、監督職員と協議の上、決定する。

・株の育成は、菖蒲苗床管理の内容である。

・なお、鉢上げせずに、株分け直後に現地にそのまま植え付けする方法あることから、鉢上げの要否も含め、監督職員と協議の上、決定する。

**８）植付地耕転**

・新植地のいや地・固結リスクの減少、病原菌の紫外線殺菌等を目的に、耕起・攪拌を行う。

・土壌改良実施までの適切な時期（８月、10月を想定）に実施すること。

・土を細かく砕く必要があるため、１作業あたり０.４ｔ級耕運機にて２回耕耘を行うこと。

・なお、鉢上げせずに、株分け直後に植え付ける場合は、株分け作業と同時に耕起・攪拌を行うこと。

**９）新植地土壌改良**

・新植地に育成した苗の植え付けにあたり、生育向上を図るため土壌改良を行う。

・作業時期は育成苗植付け前の２月初旬を想定している。

・土壌改良剤を敷均した後、０.４ｔ耕運機により対象地を２回耕耘すること。

・土壌改良材等の想定配合は、以下のとおりである。実際の施工に当たっては、監督職員と協議の上、同等以上の方法で施工すること。

　（想定例）

くん炭　　　　1,500ℓ/100㎡

ピートモス　　1,500ℓ/100㎡

菜種油粕　　　　 20ℓ/100㎡

・なお、鉢上げせずに、株分け直後に植え付ける場合は、株分け作業と同時に土壌改良を行うこと。

　土壌改良の要否（株分け後、耕起・攪拌のみの場合も想定されるため）については、監督職員と

協議の上、決定する。

**10)苗植付け**

・育成の終了した鉢上げ苗を、花菖蒲田の指定された場所に品種別に植付けること。

・作業時期は芽出し前の３月又は株分けした年の１２月を想定している。

・植付けは14～10株/㎡で、並列等間隔（基本3列植で管理用通路40cm）で行うこと。

・余った苗は、病気や生育不良等で緊急で植替えしなければならない場合のストックとして、第品種が混ざらないような措置を行い、４苗圃の苗床（サンドベンチ）で保管・管理すること。

・なお、鉢上げしない場合は、株分け直後にそのまま植え付けること。その場合は、３芽１セット（3芽を1鉢として）として、植え付けること。

**(3)順応管理**

**１) 摘花**

・開花後は景観保持のためと、結実し菖蒲の勢力を弱らせないことを目的に実施する。

・対象は、花菖蒲園の全株である。

・実施時期は監督職員と協議の上決定すること。

・作業に従事した作業員の人工数を出来高とすること。

・開花後の花を摘むこと。１芽につき２つめの花後は、結実しないよう花茎から切り取ること。

・作業に入る時は、他の花芽を傷つけないように細心の注意を払うこと。

**２) 株間引き**

・ハナショウブが過密な場所について、病害虫の発生、過密による樹勢衰退を防止することを目的に間引きを実施する。

・実施時期は８～９月を想定している。

・対象は1,000株を想定しているが、必要数のみ実施すること。

・間引きする株は２年目株とし、生育状態が悪い不良株から間引くようにすること。

・間引きする対象、時期を監督職員と協議の上、確定し作業を実施すること。

**３）緑地補修**

・設計書に記載されていないが、監督職員の指示により実施した作業を定められた変換値により算出し、出来高として計上すること。

・現時点で想定される作業

○羅病株の撤去

○スクミリンゴガイとその卵の処理

○しょうぶ田に落ちる落葉の処理

○開花期に併せたパウチの設置・撤去

○余水捌けの調整

○アゾラの薬剤処理

○病害虫駆除のための花菖蒲田底の焼却（ハナショウブ地上部刈り取り後（1月）にバーナーで焼却）

**(4)更新管理**

・なし

**(5)その他**

・近年、病気の発生が継続していることから、羅病苗等を発見した場合は、直ちに監督職員に通知するとともに、抜き取り作業（間引き）の実施について協議すること。

・ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）及びその卵を確認した場合は、監督職員の指示に従い効果的な除去作業に努めること。

**７　菖蒲苗床管理**

**(1)基本方針**

**１）現況と方針**

・主な対象は日本庭園内の「花菖蒲田」に植栽されるハナショウブのバックヤードである第四苗圃の苗床（サンドベンチ）とその周囲である。

・６月の開花期に来園者ニーズを満足させる良好な景観を作り出す苗を順調に生育させることが管理基本方針である。

**２）留意事項**

・鉢上げ株は気象の変動等外因に弱いため、十分注意して育成を行うこと。

・苗床管理の出来高数量は㎡であるが、４号ポット1ポットあたり0.0144㎡（0.12×0.12）として計算している。

・第四苗圃の関係者以外の立ち入りは認めていない。

・第四苗圃の一部は、園内管理NPOの資材（竹）の一時借置き場として臨時に使用している。

　　・第四苗圃内の畑（ハナショウブの育苗の畑）についても、管理対象として適切に管理すること。

**(2)基本管理**

**１) 施肥**

**①菜種油粕施肥**

・菜種油粕、芽出し肥として年１回（９月下旬を想定）施用する。

・対象はサンドベンチ内鉢上げ株である。

・施用では、できる限り菖蒲苗に直接かからないよう均一に散布すること。

・施用量は以下のとおり。

菜種油粕　　　　　　　　　 100g/㎡

**②長期有効肥料施肥**

・追肥として長期有効肥料を年１回（10月を想定）施用する。

・対象はサンドベンチ内鉢上げ株である。

・施用では、できる限り菖蒲苗に直接かからないよう均一に散布すること。

・施用量は以下のとおり。

長期有効被覆肥料（10-18-15-微量要素） 100g/㎡　　ハイコントロール085

**２) 病害虫防除**

・ハナショウブ管理における病害虫防除は予防散布を原則とする。

**①殺虫殺菌剤散布**

・ハナショウブの主な病気として黄縮病、軟腐病、さび病、白絹病等があり、その対応として殺菌剤を用い防除すること。

・ハナショウブに発生する主な害虫としてメイチュウ・ヨトウムシ・アザミウマ・アカダニ等があり、その対応として、殺虫剤を散布すること。

・この作業は予防散布である。病害虫が発生する前に散布するように、計画的に作業すること。

・２種混合で２パターンの薬剤散布を予定しており、作業時期は以下を想定している。

○パターン１　年２回（９月、10月）

○パターン２　年２回（９月、10月）

・対象はサンドベンチ内鉢上げ株である。

・予防散布であるので、予期せぬ時期に発生予兆があった場合、早急に散布を実施すること。

・２パターンの薬剤を同時に散布するのは認めない。

・効果を高めるため、薬剤散布は一回の作業あたり２度散布を行うこと。

・各々の薬剤散布パターンは以下のとおりである。

○パターン１　マラソン乳剤　　　1,000倍液　　マラソン乳剤

　　　　　　　　　キャプタン乳剤　　1,500倍液　　トップジンＭ水和剤

　　　　　　　　　展着剤　　　　　　適量　　　 　アビオンＥ

○パターン２　MEP乳剤　　　　　1,000倍液　　 スミチオン乳剤

　　　　　　　　　キャプタン水和剤 800倍液　　オーソサイド

　　　　　　　　　展着剤　　　　　　適量　　　　　アビオンＥ

**②殺菌剤散布**

・ハナショウブの主な病気として黄縮病、軟腐病、さび病、白絹病等があり、その対応として殺菌剤を用い防除すること。

・対象はサンドベンチ内鉢上げ株である。

・散布時期は年１回（９月）を想定している。

・薬剤散布パターンは以下を想定している。

９月　　メタラキシル粒剤　10g/㎡　　ユニフォーム粒剤

・移行性薬剤のため、散布から薬効を発揮するまで約１ヶ月程度の時間が必要である。そのため、散布時期はそのタイムラグを考慮し計画すること。

**③殺虫剤散布**

・ハナショウブに発生する主な害虫としてメイチュウ・ヨトウムシ・アザミウマ・アカダニ等があり、その対応として、殺虫剤を散布すること。

・対象はサンドベンチ内鉢上げ株である。

・散布時期は年１回（９月）を想定している。

・薬剤散布パターンは以下を想定している。

〇９月　　アセフィート粒剤8g/㎡　　オルトラン粒剤

〇冬季　　　　　　　　　　　　　 　アセフェート水和剤

イミダクロプリド水和剤

・移行性薬剤のため、散布から薬効を発揮するまで約１ヶ月程度の時間が必要である。そのため、散布時期はそのタイムラグを考慮し計画すること。

**３）菖蒲刈取**

・冬期に枯葉を残しておくと、翌年の芽出しの妨げとなるばかりか、病害虫の越冬場所となるので、芽出し促進及び病害虫防除を目的とし、冬期に一斉に人力刈取りすること。

・対象はサンドベンチ内鉢上げ株である。

・作業時期は、12月を想定している。

**(3)順応管理**

**１) 除草**

・ポット及びサンドベンチ内に雑草が繁茂しないよう、適宜人力抜取除草を行うこと。

・対象は第四苗圃の苗床（サンドベンチ）とその周囲である。

・人力除草で発生した除草屑は全て運搬処分である。

・実施時期は監督職員と協議の上決定すること。

・作業に従事した作業員の人工数を出来高とすること。

・作業では株を傷めないよう注意すること。

**２）緑地補修**

・設計書に記載されていないが、監督職員の指示により実施した作業を定められた変換値により算出し、出来高として計上すること。

・現時点で想定される作業

○羅病株の撤去

○スクミリンゴガイとその卵の処理

○夏季の寒冷紗掛け・撤去

○水量の調整

○サンドベンチ周りの除草剤散布

○補植用養生株の育成（(5)その他参照のこと）

**(4)更新管理**

・なし

**(5)その他**

・H24年度末より、品種保全のため、株分け時に発生した一定の余剰苗をサンドベンチで養生し、緊急の補植に対応することにする。そのための作業は別途積算必要。

**８ハス管理**

**(1)基本方針**

**１）現況と方針**

・主な対象は日本庭園内の「はす」に植栽されるハス27品種2,326.4㎡、スイレン7品種151.0㎡である。

・７月にははす池を中心に「早朝観蓮会」や象鼻杯・ハス酒の試飲イベントが開催される。

・「早朝観蓮会」の際に来園者ニーズを満足させる良好な景観を作り出すことがハス管理の基本方針である。

**２）留意事項**

・はす池は池干しのため、毎年冬季に水を抜き４月前に水を入れる。この作業は日本庭園の機械設備管理者に連絡し実施すること。その調整も受注者が行うこと。

・冬季の作業ははす池の水抜き後に実施すること。

・毎年はす池の水を抜く際、公園事務所委託の研究機関による水生生物モニタリング調査が実施される。その日程調整は公園事務所が行う。水を抜くタイミングは作業効率及び調査実施日の調整により決定するため、公園事務所職員と連絡を密にし、調整すること。

・毎年はす池では外来生物であるアゾラ・クリスタータが大発生している。景観を悪化させるばかりか、生態系にも被害を及ぼすので数年かけて駆除を続けている。池内清掃は主にアオコとアゾラの駆除作業である。

・第四苗圃にハスの養生桝を設置している。また早朝鑑蓮会用の化粧鉢を４基仮置きしている。

　　・植栽図面については、受注後に監督職員より受注者に渡す。

**(2)基本管理**

**１）ハス・スイレン刈取り**

・景観確保と池の富栄養化を防ぐため、枯れたハス・スイレンの地上部を人力にて刈り取る。

・対象はハス及びスイレン植栽地2,705㎡である。

・作業時期は冬季水抜きが終了（１月）した後を想定している。

・刈り取った地上部は公園事務所指定場所に捨てること。

**２）地下茎整理**

**①土部**

・定植された植栽地より外に飛び出したランナーを除去し、品種の交雑を防止するため実施する。

・対象は植栽地縁石の周り442㎡である。

・作業は冬季水抜きが終了し、ハス・スイレン地上部刈取り・池底焼却作業後（２月下旬）を想定している。

・植付け床部境界（縁石沿い）より1.0ｍ、深さ40cm以上掘上げてハスの地下茎を撤去し、公園事務所指定場所に捨てること。

・掘りあげた床土は元に埋め戻すこと。

**②ぐり石部**

・定植された植栽地より外に飛び出したランナーを除去し、品種の交雑を防止するため実施する。

・対象はぐり石部195㎡である。

・作業は冬季水抜きが終了し、ハス・スイレン地上部刈取り・池底焼却作業後（２月下旬）を想定している。

・ハス植付け床を仕分けるぐり石部分の地表部に伸びている地下茎を撤去し、公園事務所指定場所に捨てること。

**３）施肥**

・来年度のハスの生育向上を目的に施肥を行う。

・対象は、ハス・スイレン植栽地2,705㎡である。

・冬季水抜きが終了し、枯れたハス・スイレン地上部を刈り取った後（２月下旬～）を想定している。

・施肥の際は、軽く踏んで地中に押し込むこと。

・施用量は以下のとおり。

天然腐食入固形肥料（6-4-3）　　 200g/㎡ 　　　　まるやま１号

**４）殺菌剤散布**

・ハスの病原菌耐性を促進するため、殺菌剤を予防散布する。

・対象はハス・スイレン植栽地2,705㎡である。

・散布時期は年２回を想定している。

・薬剤散布パターンは以下のとおりである。

メタラキシル粒剤　1回当たり24㎏（11g/㎡）　　ユニフォーム粒剤

・移行性薬剤のため、散布から薬効を発揮するまで約１ヶ月程度の時間が必要である。そのため、散布時期はそのタイムラグを考慮し計画すること。

**５) 土壌改良**

・ハス生育を助けるため、土壌改良材を人力にて植栽地に散布する。

・対象はハス及びスイレン植栽地2,705㎡である。

・作業時期は冬季の地下茎整理・地下茎整理・地下茎除去の作業と併せる。

・土壌改良材の配合は、以下のとおりである。

ベントナイト系優良粘土モンモリロナイト土壌改良材　240g/㎡　　シェルカン・ネオ

**６）ハス鉢整備**

・当該作業は、早朝観蓮会に彩を添える４基の化粧鉢内のハスの管理と観蓮会時の設置・撤去の作業が一括してまとめられているものである。

・作業内容は以下のとおりである。

**①早朝観蓮会展示**

・早朝観蓮会実施に併せて、中央口の広場（公園内部）および日本庭園入口（内部）に各２鉢、通常第四苗圃にて養生管理しているハスの化粧鉢を展示する。観蓮会が終了すれば、また第四苗圃の指定の場所に戻すこと。

・鉢は代替えの製品が無いため、慎重に運搬設置すること。

・運搬の際鉢にダメージが無いよう、平成24年度から鉢下にパレットを置いて破損等のリスクを軽減している。展示期間はパレットの目隠しとして、コモを巻き演出を行うこと。

**②ハス鉢内整理**

・毎年冬季にハス鉢内部のハスを掘り取り、土を掘り出して整理を行う。

・ハスの地下茎が伸び過ぎであれば、適度な長さにそろえる等７月の観蓮会に花を付けるための作業を行う。

・鉢内の土を土壌改良する。余った鉢内の土は、監督職員が指定する場所に集積すること。

25％土壌改良　 万博堆肥（ふるい）　　　　　0.083㎥/鉢　（鉢の土量0.33㎥/鉢）

元肥　　　　　天然腐食入固形肥料（6-4-3）　156g/鉢（200g/㎡×7.8㎡） まるやま１号

殺菌剤　　　　　メタラキシル粒剤　　　　　　3.9g/鉢（5g/㎡×7.8㎡）　ﾕﾆﾌｫｰﾑ粒剤

**③再植付**

・整理したハスの地下茎を植えつける。

**④追肥**

・ハスの生育を促進させるために追肥を行う。

・作業時期は５～６月を想定している。

・施肥量は以下のとおり

天然腐食入固形肥料（6-4-3）　 156g/鉢（200g/㎡×7.8㎡） まるやま３号

**(3)順応管理**

**１) 枯葉撤去・摘花**

・景観上障害となる枯枝・花について、刈取り・撤去を行う。

・対象及び実施時期は監督職員と協議の上決定すること。

・作業に従事した作業員の人工数を出来高とすること。

・ハス花が終了した後、ハチスを採取し園内売店で販売している。監督職員の指示があった場合は、丁寧にハチスを茎ごと刈取り、指定される場所に搬出すること。

**２) 池内清掃**

・景観阻害、水質悪化につながる藻・水草・アゾラが発生した場合に実施する。

・対象及び実施時期は監督職員と協議の上決定すること。

・この数年のモニタリングにより、早ければ４月、遅くとも６月上旬にはアゾラの発生が確認され、冬季の水抜き時期まで繁茂する。その他の水草等（アオコ・ヒシ・マツモ等）も５月には発生が確認されるので、受注者は監督職員と協議し、適切な時期に作業に入るようにすること。

・作業に従事した作業員の人工数を出来高とすること。

・特にアゾラは繁殖力が非常に旺盛であり、わずかな破片でもすぐ大面積に成長するため、極力取りきるよう努力すること。

・撤去した水草等は監督職員が指定する場所に搬出すること。

**３）地下茎除去**

・植栽地内の込み合ったハスの地下茎を切断・除去し、ハスの樹勢回復を促進させることを目的とする。

・作業時期は冬季の地下茎整理・地下茎整理・土壌改良の作業と併せる。

・対象植栽地を深さ40cm以上掘上げて込み入ったハスの地下茎を整理・撤去し、撤去した地下茎は監督職員が指定する場所に捨てること。

・掘りあげた床土は元に埋め戻すこと。

・対象面積は監督職員が指定した植栽桝区域とする。

・整理後、残した地下茎は十分に保護するなどの措置を取ること。

**４）苗圃管理**

・第四苗圃のハス養生鉢のハスの生育に関する潅水や除草を目的とする作業である。

・作業内容及び実施時期は監督職員と協議の上決定すること。

・作業に従事した作業員の人工数を出来高とすること。

**５）緑地補修**

・設計書に記載されていないが、監督職員の指示により実施した作業を定められた変換値により算出し、出来高として計上すること。

・現時点で想定される作業

○水の循環を促進するためのハス茎の間引き

○スクミリンゴガイとその卵の処理

○ハス葉の間引き

○余水吐の調整

○蓮池のくん炭による土壌改良

○アゾラ等外来生物の駆除のためのハス池底の焼却（ハス・スイレン刈取り後（1月）にバーナーで焼却

**(4)更新管理**

・なし

**(5)その他**

・ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）及びその卵を確認した場合は、監督職員の指示に従い効果的な除去作業に努めること。

・イベントの際は関係者に協力すること。

**【その他】**

**９その他（留意事項）**

・業務に係る提出書類や万博記念公園における作業上の留意点などは、「緑地管理委託役務業務等共通仕様書」（受注後に監督職員より提示）に記載の内容とする。なお、同共通仕様書に定めのないもので、大阪府が必要と認めたものについては、その指示に従い資料の提出を行うこととする。

日本庭園　修景チェックシート(No1)

点検年月日：　　年　　月　　日（　）

点検者　　：

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 対象  箇所 | 構成要素 | チェック項目 | 異常 | 状況・場所 | 対応（処理・方法等） |  |
| 滝・泉 | 滝石組 | ①滝石組の石に下草などがかかりすぎていないか | 有・無 |  |  |  |
| ②滝石組周辺に樹木枝がかかりすぎていないか | 有・無 |  |  |  |
| ③奥行きが保たれているか | 有・無 |  |  |  |
| ④こもれ日が落ちているのかどうか | 有・無 |  |  |  |
| 滝・泉・心字池・鯉池・流れ | 水面 | ①水質、水面に異常はないか | 有・無 |  |  |  |
| ②池底にコケが堆積していないか | 有・無 |  |  |  |
| ③水面にコケ、藻が浮遊していないか | 有・無 |  |  |  |
| ④著しい水量の変化が見られないか | 有・無 |  |  |  |
| 水流 | ①セキショウやドクダミが繁茂していないか | 有・無 |  |  |  |
| ②落ち葉や土砂が堆積していないか | 有・無 |  |  |  |
| 護岸、石 | ①護岸周辺や景石に樹木枝や低木、下草などがかかりすぎていないか | 有・無 |  |  |  |
| ②水面の立石や石敷きに雑草が繁茂していないか | 有・無 |  |  |  |
| ③水分け石がセキショウなどで覆われていないか | 有・無 |  |  |  |

※異常発見場所は、別途、図示すること

日本庭園　修景チェックシート(No2)

点検年月日：　　年　　月　　日（　）

点検者　　：

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 対象  箇所 | 構成要素 | チェック項目 | 異常 | 状況・場所 | 対応（処理・方法等） |  |
| 全域 | 芝地・草地・草花・白川砂 | ①芝生や草花、園路沿い、白川砂に雑草の目立つ箇所がないか | 有・無 |  |  |  |
| ②芝地に異常が見られないか | 有・無 |  |  |  |
| 樹木 | ①枯れ枝、枯れ技で目立つところはないか | 有・無 |  |  |  |
| ②徒長している枝はないか | 有・無 |  |  |  |
| ③病害虫におびやかされている樹木はないか | 有・無 |  |  |  |
| ④下枝が低すぎる樹木はないか | 有・無 |  |  |  |
| ⑤（景観や個々で）著しくバランスを欠いている樹木はないか | 有・無 |  |  |  |
| ⑥倒木はないか | 有・無 |  |  |  |
| ⑦実生はないか | 有・無 |  |  |  |
| ⑧ﾔﾏﾓﾓ、ﾏﾃﾊﾞｼｲ等の樹冠や密度が濃くなりすぎていないか | 有・無 |  |  |  |
| ⑨花木(ﾓﾐｼﾞ含む)などは適期に彩りが表現されているか | 有・無 |  |  |  |
| その他 | | 有・無 |  |  |  |

※異常発見場所は、別途、図示すること

景観管理記録シート

【ポイント名：　　　　】撮影場所：

景観管理施工開始/　　　　　　年

　　　　　　　　　　　　　　　（施工前）

　　　　　　　　　　　　　　　（施工後）　　　　　　　　　　　　　　　　 次年度への伝言など

※施工箇所や施工範囲、手を入れた樹木などが分かるように図面も添付すること